

障害や難病を持つ人だって 働きたい、働ける

一般社団法人 ローランズプラスは東京都国家战略特区と連携し「障害者の共同雇用」開始のため、ウイズダイバーシティ有限責任事業組合(「しょく」)を設立。障害者雇用にハーダルを感じる中小企業とチームとなり、新しい雇用創出の在り方を提案している。代表理事の福寿満希さんはフラワービジネスを通じて障害者雇用に関わる様々な実績を作っている。



福寿 満希 FUKUJU MIZUKI

1989年、石川県生まれ。埼玉で育つ。
2013年、23歳の頃に株式会社LORANSを設立し
フラワーサービスを開始。2016年に障害者雇用を
スタートし、原宿など5拠点で従業員60名のうち
45名の障がいや難病当事者を雇用している。

株式会社 LORANS 代表取締役
一般社団法人 ローランズプラス 代表理事

撮影・構成◎ヨシノ

ローランズ原宿就労継続支援A型の事業

—2017年オーブンのローランズは店内に
カフェと花屋が併設され、カラフルなスマート
や食べられるお花を使ったオーブンサンドなど
の軽食も楽しめるのが特徴で、もう一つの特徴が
スタッフ七割の障害者雇用ですね。

福寿 はい。就労継続支援A型店舗は原宿ロ
ーランズが二店舗目になります。

—障がいのある方がお花屋さんやカフェで働く
という選択肢は、なかなかないように思います。
福寿 はどのようにされているのですか。

福寿 ハローワークの求人を見て応募してくだ
さる方がほとんどです。人柄を重視して採
用しています。

—どのような業務を担当されるのでしょうか。

福寿 採用時に自身の障がいへの理解度や
どれくらい自分の言葉で説明できるかなど確
認をさせていただき、配属します。接客は得意な人には
なるべく接客を担当していただいています。
現在お花屋さんの店舗の他にもフラワーギ
フトの企画や制作を中心とするギフトスタジオ
がありますので、そこでも業務があります。
意な人と苦手な人がいるので、得意な人には
なるべく接客を担当していただいています。
福寿 ハローワークの求人を見て応募してくだ
さる方がほとんどです。人柄を重視して採
用しています。

—障害者雇用の工夫があれば教えてください。

福寿 仕事に馴染めないと理由で退職して

しまったというスタッフもいましたので、会社
の中でもどんどん転職して自分に合った場所を
みつけられるように社内ジョブチエンジ制度
を始め、退職の選択をしなくてもいいように
工夫しました。シフトは希望に応じて早番・
運番を設定していますが、今はフルタイムで
働くスタッフも増えています。まずは安定し
た出勤をすることの大切と考えています。

—他に大切にされていることはありますか。

福寿 障がい当事者だけが働きやすい環境を
一番に考えるのはなく、スタッフ全員がお互
いに人と人として働くということを大切にし
ています。働きやすい環境というのはどちら
か一方が努力ができるものではないのです。
—障がいへの配慮も難しかったのではないか
でしょうか。

福寿 難しかったですね。私自身が「障がい
当事者にどこまで仕事を任せてもしかたないのか」「障
がいがあるから休んでもしかたないのか」と

—とはいえ、鮮度が命のお花を在宅でできる
ところには限りがあるのではないかとおも

福寿 はい。感染症への不安やリスクを考え
在宅勤務に切り替えるを得なかつたのです
わない作業を切り出して在宅で行う方法を考
えました。チームで一つの商品を作ればいい
という方法です。

コロナ禍で学んだこと

福寿 同時に様々なプロジェクトをスタート
しました。結婚式やパーティなどでキャンセ
ルになったお花の処分があり、花を扱う身と
してはとても辛い状態でした。そこで取り組
んだのが、キャンセルとなつたお花を医療從
事者など頑張る人たちに届けるフラワードネ
ーションプロジェクトです。このプロジェクトで
トに障がい当事者スタッフが関わったことに
より、自分たちも誰かの力になれる、ということ
をそれぞれが認識し、とてもいいプロジェクト
になりました。

—社会課題に自分たちもアクションを起こす
ことができたという喜びがありますね。

福寿 そうです。今までには擁護される側だっ
たのが、与える側になつていくという自覚が
芽生えたのはすごくいいことでした。次に取
り組んだのが「お花屋さんのこともこはん」で
す。ひとり親世帯などを支援する団体と連携
して、支援が必要な人たちへお食事と一緒に
一輪のお花を添えてお届けします。もちろん
このプロジェクトの中心にも障がい当事者ス
タッフがいます。

—「こはんにお花を添える」というのはお花屋さ
んだからこそできる気遣いですね。

福寿 一輪のお花は「ごはんを食べててくれる
子どもたちへのプレゼントではあったのです
が、そのお花の反響がとても大きく、「お母さ
んにあげたらとつても喜んでくれた」と嬉し

そうに教えてくれる子どもたちから、花の持つ力の大きさを改めて実感しました。

—この活動といいますか、障害者雇用はどういうきっかけで始めたのですか？

福寿 2013年、23歳の時にフラワービジネスで起業しましたが、起業してすぐ障害者雇用を考えていたわけではありません。自宅をアトリエにして事業を始めましたが、2年程経過したころに起業を考えた時はソーシャルビジネスが目標だったはずなのに、と思うようになりました。そこで破棄されたお花を再資源化して再生紙をつくる活動や、障害者施設でお花のレッスンを開催するようになります。

その施設で一度精神を病んでしまうと就職活動をしてもなかなか雇ってもらえないという事実を知り、改めて障害者雇用の課題を目の当たりにし、それなら自分の会社で採用できなかっただと考え、事業が軌道に乗り、お花の店舗をもつことができたタイミングの2016年から障害者雇用をスタートしました。

学生時代の教育実習で特別支援学校を訪れた時に卒業後の選択肢が狭いことを知り、自分が就職の選択肢を広げるために何かができることはないのだろうか、とその時に思ったことも大きかったと思います。

—特別支援学校での実習体験も現在に繋がつ

ているんですね。

福寿 そう思います。ただ、もともとは順天堂大学で本格的にスポーツマネジメントを学んでいましたので、大学卒業後は目標としていたスポーツマネジメント会社に就職しました。

—就職されたのにどのような過程で起業に進んでいかれるのでしょうか。

福寿 入社後、野球選手の社会貢献活動の企画運営に関わるようになりました。サービスや商品がそのまま社会貢献に繋がるビジネスがあることでもこの部署で知り、この頃からソーシャルビジネスを意識するようになります。

—大きなきっかけなのです。社会貢献活動をやっていた部署から営業の部署になってしまい、悩む日々でした。自分の好きなことができる働き方をしたいと徐々に考えるようになり、同時に花屋に勉強に行くようになります。

—事業はお花屋さんと決めていらした。

福寿 はい。学生時代にスポーツ心理学で心を安定させる方法として植物や自然などが良いと学んではいましたが、私自身仕事で悩んでいる時ほど、通勤途中にある花屋の前を通るだけで心が回復した経験が何度もあり、心を癒す方法が花なんじゃないか、今のストレス社会でお花をたくさんの人には届ければ人々のストレスをなくせるかも? と思うようになり、週末の休みを利用してお花屋さんに勉強したりました。

—事業をお花屋さんと決めていたのはいつ頃ですか。

福寿 2017年、国家戦略特区に指定されている北九州市の担当者の方から、弊社の障害者雇用を知り「ローランズさんで特例を作った際の参考にならう」と伺いました。

福寿 はい。2019年にスタートして今では七社のパートナー企業と役割分担を行い障害者雇用を新しく生み出すようになっていますが、道のりは長かったです(笑)。

—取り組んだのはいつ頃ですか。

福寿 2017年、国家戦略特区に指定されている北九州市の担当者の方から、弊社の障害者雇用を参考に「ローランズさんで特例を作った際の参考にならう」と伺いました。

福寿 はい。2019年にスタートして今では七社のパートナー企業と役割分担を行い障害者雇用を新しく生み出すようになっていますが、道のりは長かったです(笑)。

強しに行きました。当時はお花屋さんをやるだけでそれがソーシャルビジネスだと思い込んでいましたから(笑)。花屋に勉強に行き、半年後には退職していました。

—思い切りましたね。

福寿 若かったから(笑)。やってみてこんなに大変だったんだーなんて事業に花を選んでしまったのだろうーと思うこともありますけど(笑)。

強しに行きました。当時はお花屋さんをやるだけでそれがソーシャルビジネスだと思い込んでいましたから(笑)。花屋に勉強に行き、半年後には退職していました。

—思い切りましたね。

福寿 若かったから(笑)。やってみてこんなに大変だったんだーなんて事業に花を選んでしまったのだろうーと思うこともありますけど(笑)。

—思い出しましたね。

福寿 若かったから(笑)。やってみてこんなに大変だったんだーなんて事業に花を選んでしまったのだろうーと思うこともありますけど(笑)。

—思い出しましたね。

福寿 若かったから(笑)。やってみてこんなに大変だったんだーなんて事業に花を選んでしまったのだろうーと思うこともありますけど(笑)。

—思い出しましたね。

福寿 はい。参考にならうと伺いました。

福寿 はい。2019年にスタートして今では七社のパートナー企業と役割分担を行い障害者雇用を新しく生み出すようになっていますが、道のりは長かったです(笑)。

—取り組んだのはいつ頃ですか。

福寿 2017年、国家戦略特区に指定されている北九州市の担当者の方から、弊社の障害者雇用を参考に「ローランズさんで特例を作った際の参考にならう」と伺いました。

国家戦略特区とは
「世界一番ビジネスをしやすい環境」を作ることを目的に地域や分野を限定することで、大胆な規制・制度の緩和や税制面の優遇を行う規制改革制度です。